

# Cisco Unified CallManager および Presence Server のサービス拒否の複数の脆弱性

<b>Medium</b>	アドバイザーID : cisco-sa-20070328-voip	<a href="#">CVE-2007-1833</a>
<b>m</b>	初公開日 : 2007-03-28 16:00	<a href="#">1833</a>
	バージョン 1.0 : Final	<a href="#">CVE-2007-1826</a>
	CVSSスコア : <a href="#">4.7</a>	<a href="#">1826</a>
	回避策 : <a href="#">Yes</a>	
	Cisco バグ ID :	

日本語による情報は、英語による原文の非公式な翻訳であり、英語原文との間で内容の齟齬がある場合には、英語原文が優先します。

## 概要

Cisco Unified CallManager ( CUCM ) および Cisco Unified Presence Server ( CUPS ) には、CUCM または CUPS の機能に障害を引き起こすことがある複数の脆弱性が含まれており、Denial of Service ( DoS; サービス拒否 ) 状態が発生する場合があります。これらの脆弱性に対する回避策はありません。Cisco では、該当するお客様用に、これらの脆弱性に対応する無償ソフトウェアを提供しております。

このアドバイザーは [328-voip](#) で掲示されます。

## 該当製品

### 修正済みソフトウェア

脆弱性を含む製品は次のとおりです。

- 3.3(5)SR2a よりも前の Cisco Unified CallManager 3.3 バージョン
- 4.1(3)SR4 よりも前の Cisco Unified CallManager 4.1 バージョン
- 4.2(3)SR1 よりも前の Cisco Unified CallManager 4.2 バージョン
- 5.0(4a)SU1 よりも前の Cisco Unified CallManager 5.0 バージョン
- 1.0(3) よりも前の Cisco Presence Server 1.0 バージョン

管理インターフェイスで **Show > Software** に移動することで、CUCM / CUPS システムのソフトウェア バージョンを確認することができます。

CUCM バージョン 5.0 および CUPS バージョン 1.0 のシステムの場合は、Command Line

Interface ( CLI; コマンドライン インターフェイス ) でコマンド `show version active` を実行してソフトウェア バージョンを確認することもできます。

CUCM バージョン 3.x および 4.x のシステムの場合は、管理インターフェイスで **Help > About Cisco Unified CallManager** に移動し、**Details** ボタンを選択することで、ソフトウェア バージョンを確認することができます。

## 脆弱性を含んでいないことが確認された製品

CUCM バージョン 4.3(1) および 5.1(1) は、このアドバイザリで説明されている脆弱性には該当しません。他のシスコ製品においてこのアドバイザリの影響を受けるものは、現在確認されていません。

### 改訂履歴

リビジョン 1.0	2007 年 3 月 28 日	初回公開リリース
-----------	-----------------------	----------

### 利用規約

本アドバイザリは無保証のものとしてご提供しており、いかなる種類の保証も示唆するものではありません。本アドバイザリの情報およびリンクの使用に関する責任の一切はそれらの使用者にあるものとします。また、シスコは本ドキュメントの内容を予告なしに変更したり、更新したりする権利を有します。

本アドバイザリの記述内容に関して情報配信の URL を省略し、単独の転載や意識を施した場合、当社が管理した情報とは見なされません。そうした情報は、事実誤認を引き起こしたり、重要な情報が欠落していたりする可能性があります。このドキュメントの情報は、シスコ製品のエンドユーザを対象としています。